

# 東燃ゼネラル石油株式会社 2009年12月期第3四半期決算概要 および通期業績予想の修正

2009年11月13日



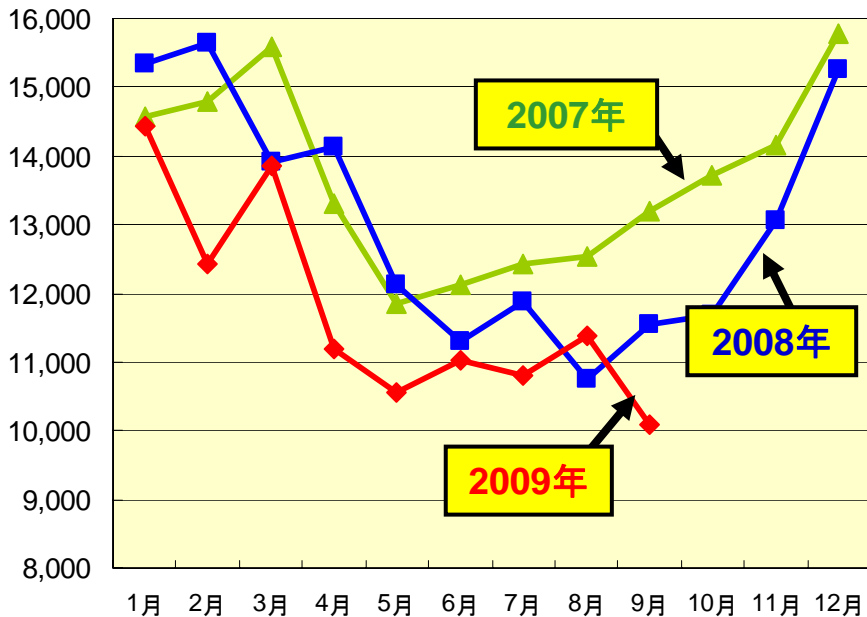
## 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

# 事業環境の動向

- 2009年7-9月の石油製品マージンは低迷 – 原油価格上昇が十分に反映されない製品市況
  - » 低水準の製品輸出マージン
  - » 国内石油製品需要は引き続き減少傾向
  - » 原油処理量の更なる削減
- 石油化学製品は、4-6月以降マージン・数量ともに緩やかな回復基調にあるが、9月の芳香族製品マージンは下落傾向

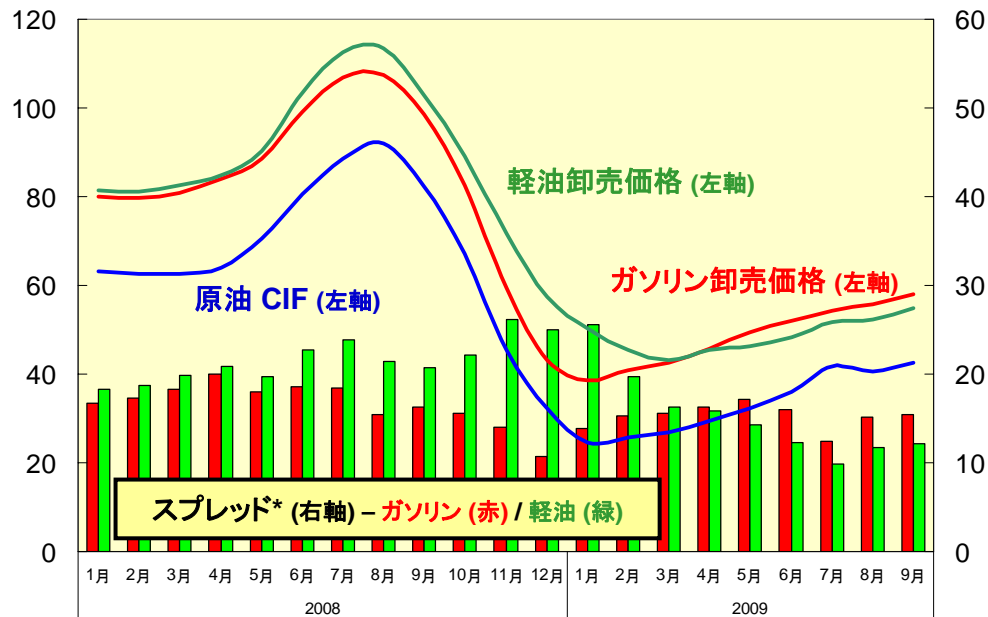
**国内石油製品需要の推移 (2007年~)**  
(主要5油種\*, KKL)



(\*) ガソリン/軽油/灯油/A重油/C重油

出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

**原油と石油製品価格の推移 (2008年~)**  
(原油CIFとガソリン/軽油卸売価格, 円/ℓ)



(\*) スプレッド: 卸売価格 – 原油CIF

注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 決算ハイライト



- 2009年1-9月期の営業利益は前年同期比594億円の減益
- 在庫関連利益、原油コストの認識時点の差によるマイナスの影響額および前年1-3月期に計上した資産売却に伴う利益を調整すると、2009年1-9月期の調整後営業利益は前年同期比73億円の増益
  - ▶ 石油化学部門収益の大幅下落を十分に補う、石油部門における調整後利益の改善

(億円)	'08 1-9月期	'09 1-9月期	増減
売上高	26,315	<b>15,247</b>	-11,068
営業利益	458	<b>-136</b>	-594
経常利益	530	<b>-120</b>	-650
特別損益	42	<b>-12</b>	-54
当期純利益	342	<b>-74</b>	-416
<hr/>			
在庫関連利益の調整	-327	<b>-95</b>	232
原油コスト認識時点の差による影響額の調整	-45	<b>280</b>	325
資産売却に伴う利益の調整	-110	-	110
<b>調整後営業利益</b>	<b>-24</b>	<b>49</b>	<b>73</b>
石油部門 他	-273	<b>22</b>	295
石油化学部門	249	<b>27</b>	-222

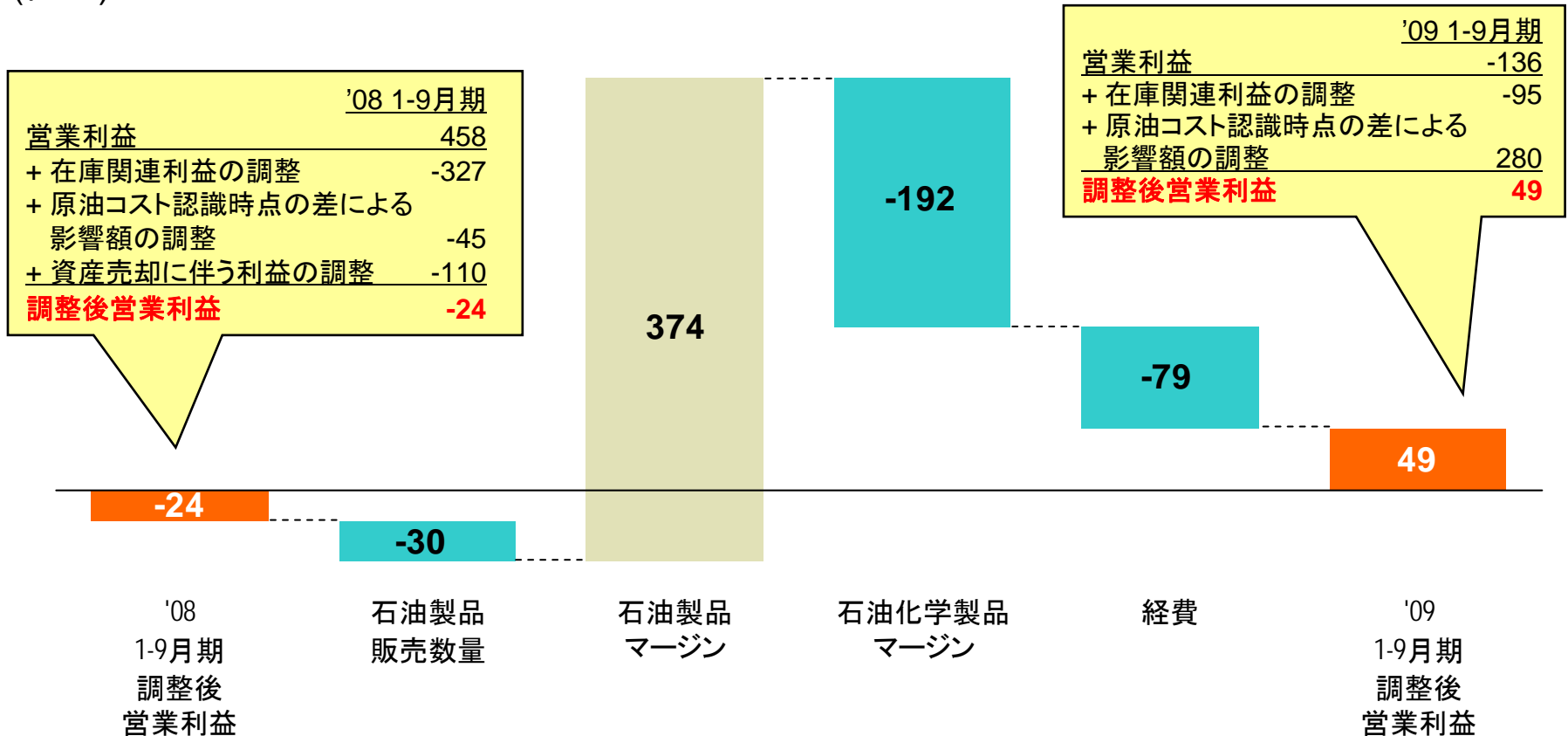
- 前年同期に比べ原油価格が低水準で推移したことにより、売上高は42%の減少
- 当期において特記すべき営業外および特別損益はなし

# 営業利益増減の要因分析

## [1-9月期連結営業利益、前年同期比]

- 石油部門の調整後営業利益は、1-3月期の高水準の精製マージンに支えられて前年同期比改善
- 石油化学部門では、一般的な業界傾向と同様、厳しい経済情勢を反映した低水準のマージンおよび販売数量減により、営業利益が悪化。2009年4-9月期は1-3月期に比べて若干の改善

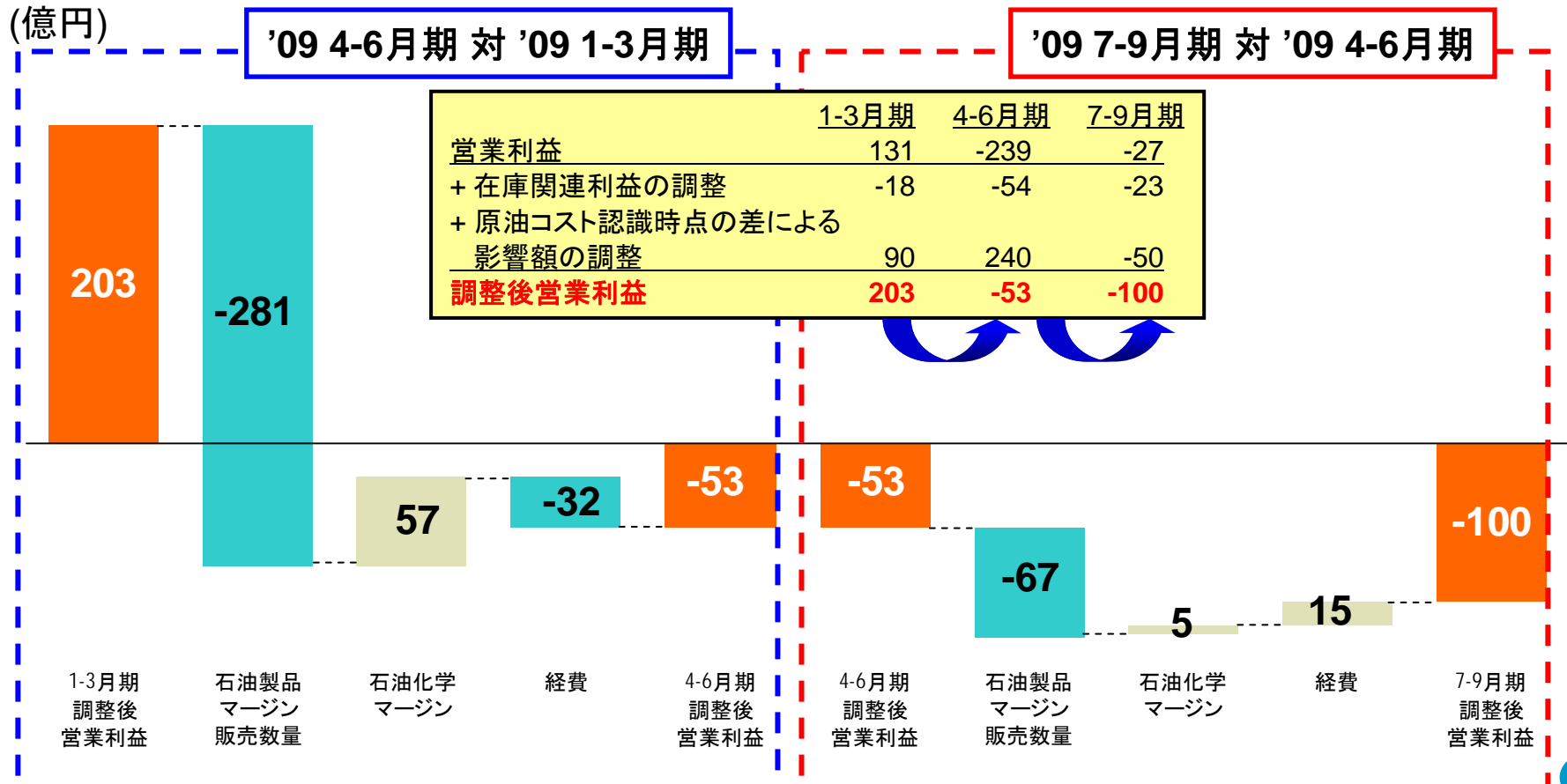
(億円)



# 営業利益増減の要因分析

## [7-9月期連結営業利益、1-3月期 / 4-6月期比]

- 4-6月期の石油部門調整後営業利益は1-3月期より悪化。7-9月期は4-6月期よりさらに悪化
  - ▶ 特に7月精製マージンが低水準
  - ▶ 4月以降大幅な原油価格の上昇
- 4-6月期の石油化学製品マージンおよび需要は1-3月期より回復、7-9月期も若干の改善



# 販売数量/稼働率

- 7-9月期の国内中間留分需要は引き続き低迷
- 低水準の製品輸出マージン：国内販売と輸出の最適バランスに注視
- 石油化学製品の販売数量は、オレフィン類が1-3月期の需要低迷の影響により、また芳香族製品は堺工場定期修理(本年5月/6月)の影響により前年同期比減少。ただし、7-9月期の販売数量は、ほぼ前年同期の水準まで回復

## 石油製品\*

(千KL)

日本国内での販売

	'08 1-9月期	'09 1-9月期	増減	国内全体 増減****
ガソリン	7,433	<b>7,797</b>	+4.9%	0.4%
灯油	2,072	<b>1,873</b>	-9.6%	-6.1%
軽油	2,250	<b>2,129</b>	-5.4%	-7.0%
A重油	1,815	<b>1,462</b>	-19.4%	-17.4%
C重油	1,304	<b>1,040</b>	-20.2%	-30.2%
主要5油種合計	14,874	<b>14,301</b>	-3.9%	-9.4%
LPG その他	1,899	<b>1,754</b>	-7.6%	
小計	16,773	<b>16,055</b>	-4.3%	
輸出**	3,842	<b>4,327</b>	+12.6%	+7%
その他***	3,304	<b>2,566</b>	-22.3%	
石油製品合計	23,919	<b>22,948</b>	-4.1%	

## 石油化学製品

(連結ベース)

(千トン) オレフィン類他 (東燃化学分)	1,358	<b>1,196</b>	-11.9%
芳香族類他 (東燃ゼネラル石油分)	625	<b>592</b>	-5.2%
石油化学製品合計	1,982	<b>1,788</b>	-9.8%

注記:

- \* 連結ベース、バーターを除く
- \*\* 保税販売を除く
- \*\*\* 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む
- \*\*\*\* 出典：経済産業省「資源エネルギー統計」

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース)

72%

75%

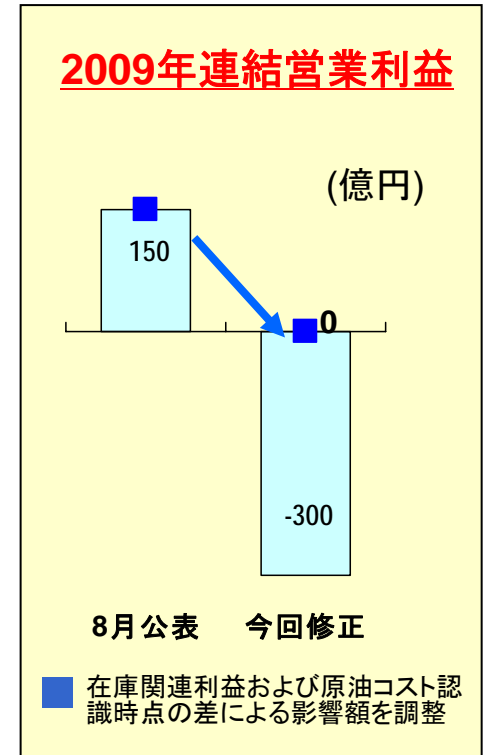
75%

# 業績予想の修正 [連結]



- 2009年通期では300億円の営業損失を予想
  - ▶ 今回修正には、原油コスト認識時点の差によるマイナスの影響額340億円と、在庫関連利益40億円が含まれる
- 調整後の予想営業利益はゼロ
  - ▶ 石油部門の調整後営業利益は、現状の低水準な精製マージンを考慮して50億円の損失と予想
  - ▶ 石油化学部門の営業利益は、従来予想の50億円から変更なし
- 1株あたり年間38円の配当見通しは変更なし

(億円)	2008年	2009年予想	
	実績	8月公表	今回修正
売上高	32,724	21,000	22,000 <sup>(*)</sup>
営業利益	1,217	-90	-300
経常利益	1,313	-80	-280
特別損益	24	-20	-20
当期純利益	793	-50	-170
<hr/>			
在庫関連利益の調整	-141	-30	-40
原油コスト認識時点の差による影響額の調整	-745	270	340 <sup>(*)</sup>
資産売却に伴う利益の調整	-110	-	-
<b>調整後営業利益</b>	<b>222</b>	<b>150</b>	<b>0</b>
石油部門 他	198	100	-50
石油化学部門	139	50	50

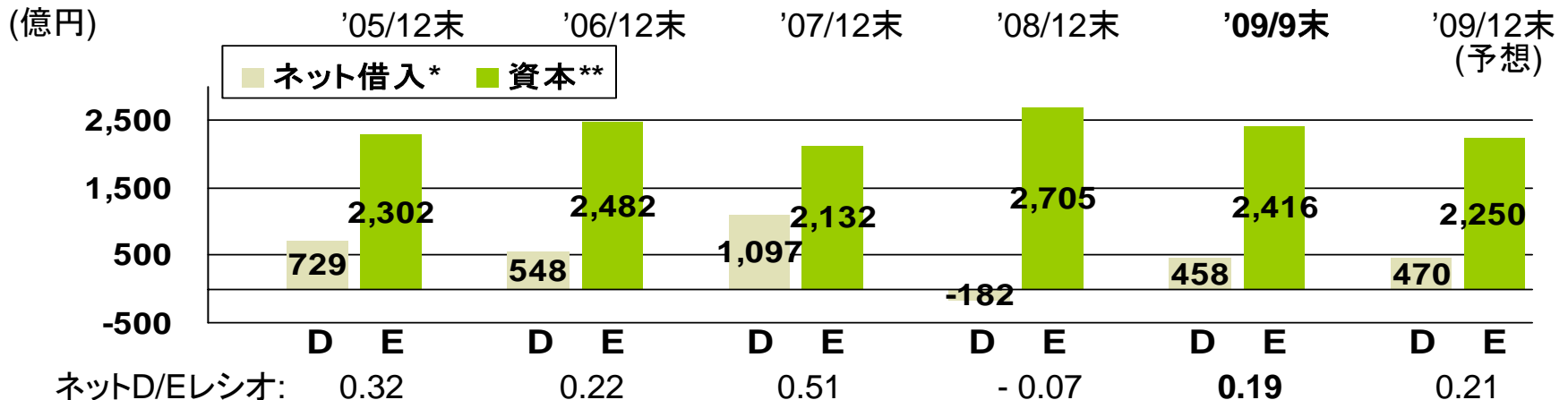


(\*) 2009年10月平均ドバイ原油価格73.2ドル/バレル、為替90.4円/ドルを前提に算出

# キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)	'09 1-9月期
<b>営業活動 / 投資活動</b>	<b>-431</b>
税引前純利益	-132
設備投資額/減価償却費/資産売却却	35
たな卸資産	24
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	-65
法人税等の支払	-414
その他	121
<b>財務活動</b>	<b>436</b>
借入金が増(減)	644
配当金支払額	-207
その他	-1
<b>現預金の増減</b>	<b>4</b>

- 主に1-9月期の損失および2008年度利益に伴う法人税の支払により、2008年末比でネット借入金が増加
- 健全な財務体質を維持
- 2009年末のネットD/Eレシオは21%の見込み



\* 現預金・貸付金等の影響を除いた借入金

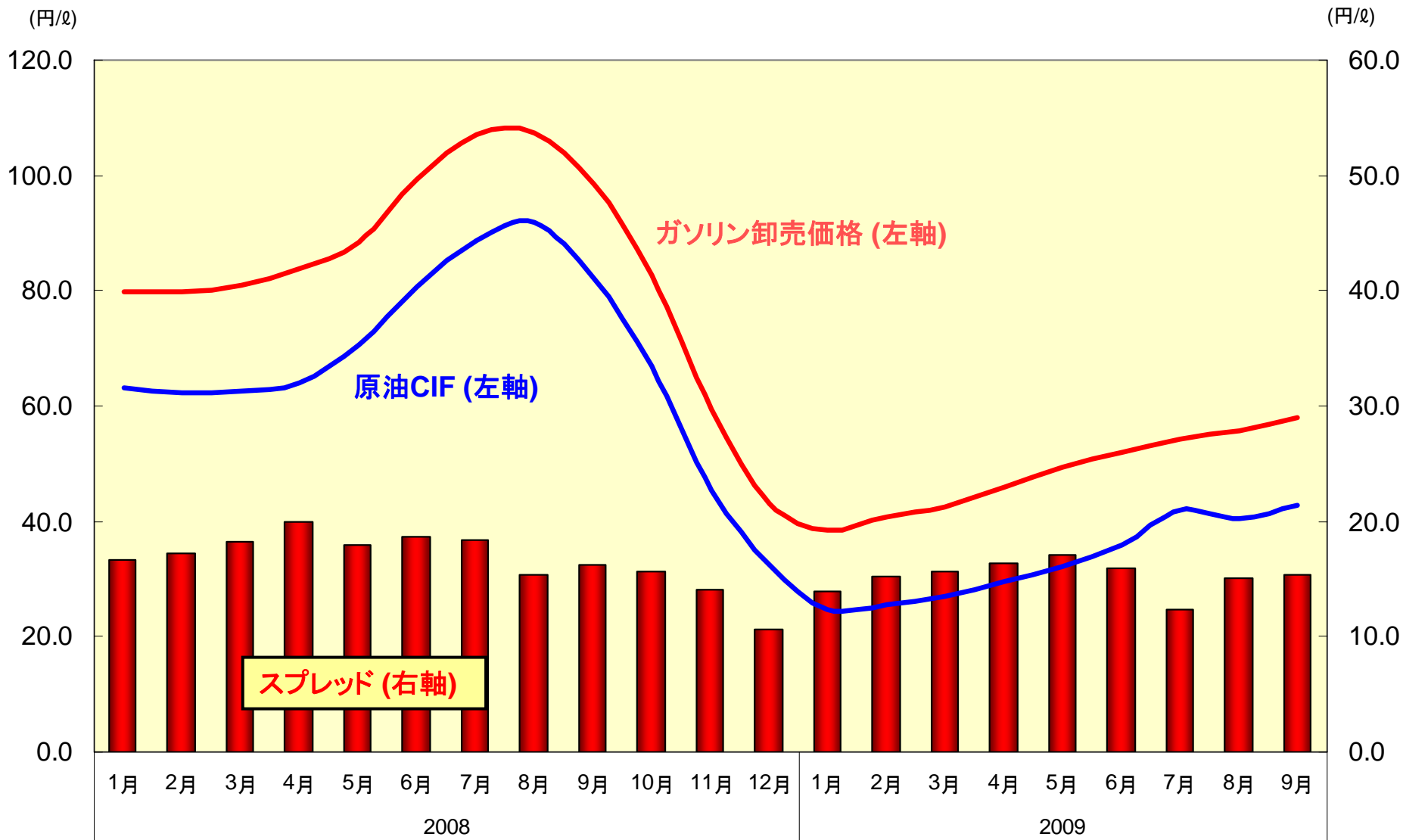
\*\* 少数株主持分を除く純資産



## 參考資料

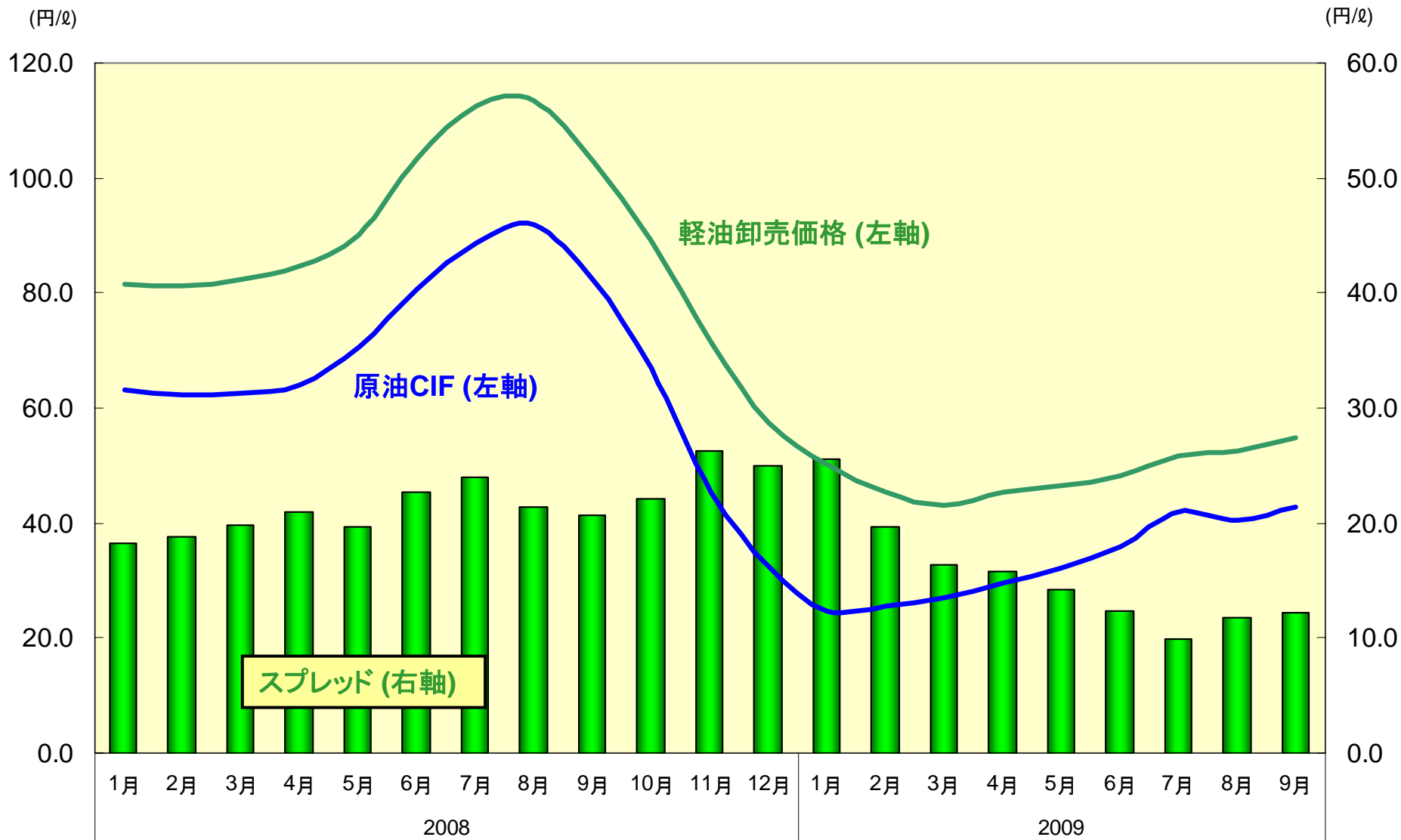
---

# 価格スプレッド (ガソリン卸売価格 – 原油CIF)



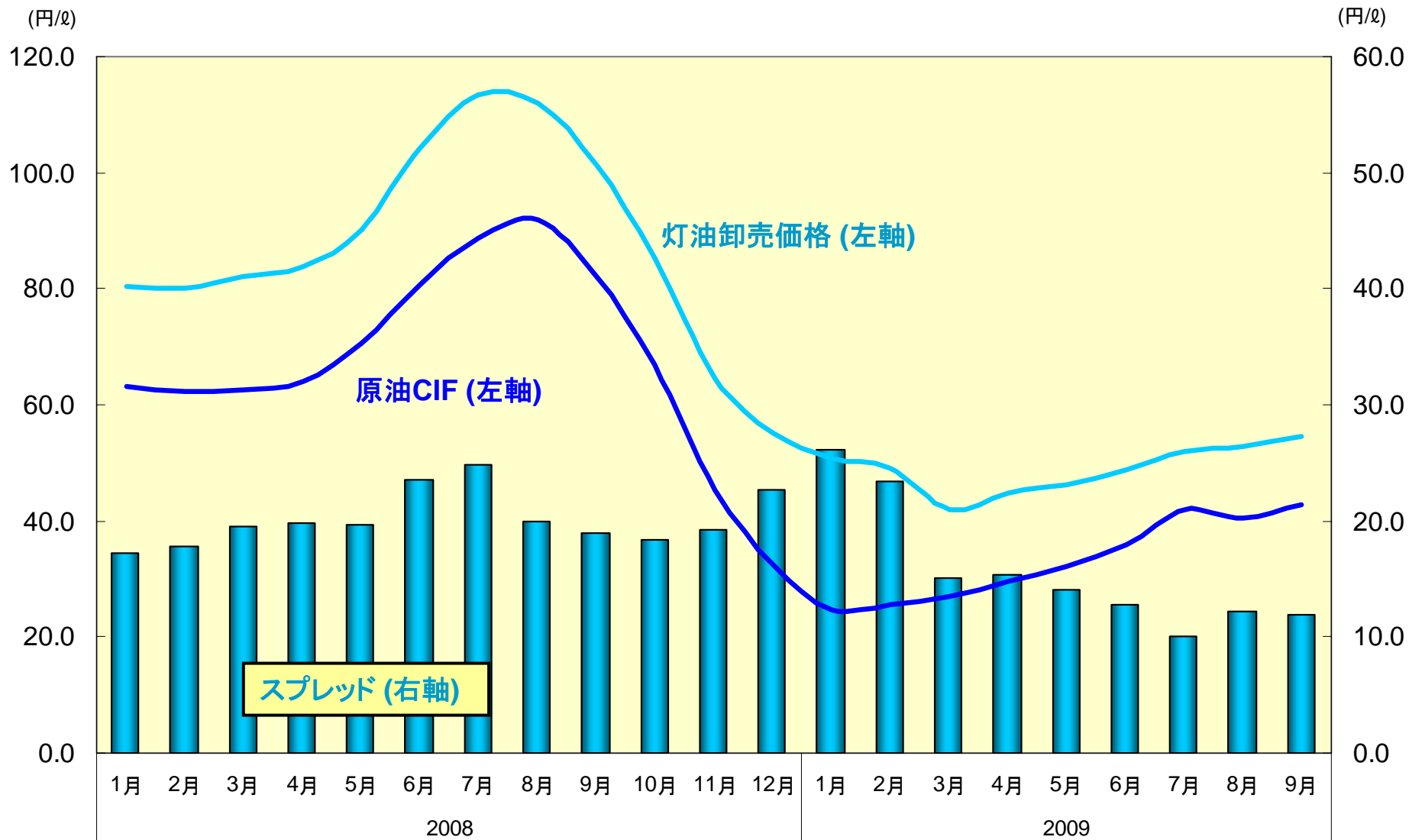
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (軽油卸売価格 - 原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (灯油卸売価格 – 原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成